

中学校 国語科学習指導案

日 時 平成 23 年〇月〇日
 対 象 〇〇立〇〇中学校
 第 1 学 年 〇 組

1 単元（題材）名（科目名、教科書、副教材）

単元名 自分を見つめる ～作品を読み、人物の思いや体験の深さに気付く～
 教科書 「国語 1」（光村図書）
 教材名 「少年の日の思い出」（ヘルマン・ヘッセ／高橋健二訳）

2 単元（題材）の目標

場面の展開や登場人物などの心情の変化に注意して読み、自分の考えをもつ。

3 単元（題材）の評価規準

観点	ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・主人公の少年の未熟さや葛藤に触れ、自らのものの見方や考え方を広げようとしている。	・作品の構成や展開を的確に捉え、登場人物の言動や情景描写から心情の移り変わりを読み、内容の理解を深めている。 ・作品中の出来事や登場人物の考え方、生き方から、作品の魅力について自分の考えをもつ。	・新たに学ぶ語句や、人柄・心情を表す語句について理解を深め、より多くの語彙を身に付ける。
学習活動に即した具体的な評価規準	①本文を読み、登場人物の人柄について考えている。 ②本文を読み、登場人物の心情について考えている。 ③「僕」の言動を、他の登場人物の視点で捉え直そうとしている。	①登場人物の言動や情景描写から、人物の人柄を捉えている。 ②登場人物の言動や情景描写から、「僕」の心情を捉えている。 ③「僕」の言動を他の人物の視点から的確に捉え直している。 ④登場人物の言動から、「僕」の人間的な成長を捉えている。 ⑤登場人物の言動から、「僕」の人間的な未熟さを捉えている。	①辞書を使いながらワークシートに取り組み、新出語句の意味を的確に捉えている。 ②辞書を使って新出語句を調べ、文脈上での意味を考える。 ③登場人物の心情の変化を表す上での語句の効果を理解する。

4 指導観

(1) 単元（題材）観

学習指導要領の「読むこと」の目的には、「目的や意図に応じ、様々な本や文章を読み、内容や要旨を的確に捉える能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。」とある。そして、本題材は、中学校 1 学年で最後に学ぶ文学的文章にあたる。1 学年において、登場人物の言動や情景描写を根拠に登場人物の心情を読み取ったり、主人公の成長から作品の主題について考えたりする指導を既に重ねてきた。したがって、本単元においては、既に身に付けた力を活用し、主体的に作品世界を的確に捉え、ものの見方や考え方を自ら広げられるような指導を行う。

(2) 教材観

本教材は、主人公である「僕」の精神的な成長が描かれている。しかし、主人公の成長がすすがしく達成されておらず、主人公の未熟さゆえの葛藤と失敗の果てにもたらされているという点にある。その未熟さとは、無我夢中に自らの趣味に没頭するがゆえに他者への寛容な配慮や思いやりをもてないことである。その失敗とは、その結果として罪を犯し、さらに自分にとって最も大切なものを自分自身で汚してしまうことである。また、その成長とは、一度起きたことは二度と取り返しがつかないという事象の一回性の自覚であり、同時に、思い通りにならない他者との遭遇による葛藤を通じた、自己を客観的に見つめる視座の獲得である。

したがって、指導に際しては、主人公の少年のこうした成長の過程を、作品中の叙述を根拠に一つ一つ気付けさせていく。その際、主人公の言動における事実のみ焦点をあてるのではなく、その効果的な表現の仕方や、他の登場人物から見た主人公の姿なども踏まえさせる。

(3) 他単元とのつながり

どの文学作品の単元においても、本文を通読した後に、新出語句の意味を文脈に即して考えさせる指導を行い、学習習慣を身に付けさせるようにしている。そして、「にじの見える橋」「麦わら帽子」では叙述に即して心情を読解する視点を重点的に指導し、「大人になれなかった弟たちに…」では、効果的な表現方法や作品全体の主題を読解する視点を重点的に指導した。本単元においては、既に身に付けた作品を読解する視点を活用させて、生徒に、より主体的に作品を味わわせるよう指導する。

5 年間指導計画における位置付け

生徒は、文学教材において、以下のことを重点的に学んでいる。

- ・登場人物の心情を表わす言葉に着目し、その変化を読み取る。（「にじの見える橋」）
- ・各場面における登場人物の心情を比較し、その心情を表す言葉を考える。（「麦わら帽子」）
- ・主人公の心情の変化などから作品の主題について考える。（「大人になれなかった弟たちに…」）

これらの既習事項を踏まえ、本教材では「作品中の出来事や、登場人物の考え方、生き方から、作品のもつ魅力について自分の考えをもつ」ことに重点を置く。また、叙述に即して心情や表現の工夫、さらには作品の主題を読解する力を活用させるとともに、異なる視点から作品を捉え直したときに味わえる発見の驚きに触れさせる。

6 単元（題材）の指導計画及び評価計画（6時間扱い）

時	学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）
1	・情景や登場人物の気持ちを想像しながら、全文を通読し、作品のあらましをつかむ。 ・新出漢字や新出語句の意味や用法などを調べる。	ア①② …観察、ワークシート イ① …観察、ワークシート ウ①② …観察、ワークシート
2	・語り手の転換に注意しながら、全体を前半と後半の二つに分け構成を捉える。	ア①② …観察、ワークシート イ① …観察、ワークシート ウ①② …観察、ワークシート
3	・「僕」から見た「エーミール」の人柄が描写されている部分を探して抜き出す。 ・「僕」の「エーミール」に対する気持ちが表現されている部分に着目して、「僕」の考えを捉える。	ア①② …観察、ワークシート イ①② …観察、ワークシート ウ③ …観察、ワークシート
4	・最後に収集したちょうを潰す「僕」の行動と心情を捉える。 ・「僕」のものの見方や考え方について、共感するところや疑問に思うところを話し合う。	ア①② …観察、ワークシート イ①② …観察、ワークシート ウ③ …観察、ワークシート
5	・作品の読み取りを深めるために、主人公以外の人物の立場で作品を書き換える。 ・「母」の視点から作品を捉えなおすことを通して、「僕」の行動や考え方に見られる未熟な点、さらには人間的に成長した点を捉える。	ア③ …観察、ワークシート イ③④ …観察、ワークシート ウ③ …観察、ワークシート
6 (本時)	・作品の読み取りを深めるために、主人公以外の人物の立場で作品を書き換える。 ・「エーミール」の視点から作品を捉えなおすことを通して、「僕」の行動や考え方に見られる未熟な点を捉える。	ア③ …観察、ワークシート イ③⑤ …観察、ワークシート ウ③ …観察、ワークシート

7 指導に当たって

本時においては、「エーミール」に「僕」の言動を語らせるという「物語の創作」を言語活動として設定した。ただし、好きなように書かせるだけでは読解力を向上させられないため、叙述に即して書かせることとした。具体的には、物語を書かせる前に、教科書中の「エーミール」に関わる描写に線を引かせるという指導である。

そして、そうしてできた作品を、お互いに小グループ内で回し読みをする取組を設定した。それも、ただ読むのではなく、取組の前にあらかじめ示した基準を基に互いに評価し合うという形をとることで、自他の作品の良さと課題について、自ら気付く力を高めさせたいと考えている。

8 本 時（全6時間中の第5時間目）

(1) 本時の目標

叙述に即して「エーミール」の視点から作品を捉えることで、「僕」の言動や考え方に見られる未熟な点を理解する。

(2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を把握する。 ・本時の活動内容についての話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書で目標を明示する。 「主人公の言動を、他の登場人物の目線から捉え直してみよう」 ・関心を高めるために、授業者の手柄に対する生徒の評価について、全体に発問する。 	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・「エーミール」の言動に関わる描写を教科書の中から探す。 ・発表する。 ・「エーミール」の視点から、作品中の事件を見た物語を書く。 ・グループで回し読みをする。 ・代表者が発表する。 ・「僕」について新たに分かったことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短ければ線を引かせ、大きなまとまりになっていれば四角で囲ませる。 ・机間指導により、生徒個々の理解度を捉える。 ・指名して答えさせ、書き漏れのあった生徒には、その場で書き加えさせる。 ・書き出しの言葉を事前に示す。 ・三つの観点を意識させて、15分以内で書かせる。 ・机を向かい合う形にさせる。 ・時間は一人につき2分とする。 ・グループ内の指名で代表を決めさせる。 ・「僕」の視点からでは気付かなかったことを中心に、本文中の表現を用いて説明させる。 	<p>ア - ③ 「僕」の言動を、「エーミール」の視点から捉え直そうとしている。 〔観察、ワークシート〕</p> <p>イ - ③ 叙述に即して、「僕」の言動を他の人物の視点からの確に捉え直している。 〔観察、ワークシート〕</p> <p>イ - ⑤ 叙述に即して、「僕」の言動の未熟な点を捉えている。 〔観察、ワークシート〕</p> <p>ウ - ③ 人物の心情を効果的に表すために、描写を工夫している。 〔観察、ワークシート〕</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・代表者が発表する。 ・本時のまとめを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者は、机間指導の際に授業者が選んでおく。 ・「僕」には、実は未熟な点が大いにあるということを確認する。 	

(3) 授業観察の視点

- ・物語の創作やグループ内の回し読みは、生徒が主体的に取り組める言語活動となっていたか。
- ・生徒は活動を通して、「僕」の未熟な点について気付くことができていたか。

少年の日の思い出

ヘルマン・ヘッセ

○「僕」の言動を、他の登場人物の
目線から捉え直してみよう

○「エーミール」の視点で、
物語を書き直してみよう

観点① 最初から最後の場面まで書く。

観点② 本文に沿って、想像しながら書く。

観点③ 「僕」の視点では書けないものを書く。

○「僕」について新たに分かったこと
(本文中の表現に触れながら)